

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170500146
法人名	有限会社 ティーム
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ
所在地	佐賀県伊万里市黒川町大黒川1393番地16 (電話) 0955-20-7123

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年3月28日	評価確定日	平成 20年3月28日

【情報提供票より】(平成20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 12 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	12.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		750 円	

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	3 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	74 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小島病院 世戸眼科 唐津第一病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲には森や田畑が広がる自然豊かな環境のなかに、2階建ての棟を2つ建てた2ユニットのグループホームである。小学校と保育園の近くに建ち、子ども達の通学風景が見られたり、塀のない庭へは自由に人が出入りできるなど、にぎやかな雰囲気のある環境である。身体レベルが低下した入居者の為にエレベーターを取り付けたり、視覚障害の方の訴えが分かるようなナースコールを設置するなど、それぞれの入居者のレベルに合わせた支援を行っている。また、入居者一人ひとりの能力とやる気を引き出す作業に取り組み、入居者と共に職員のケアに対する意識も向上している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の内容を受け止め、改善に向けた話し合いを職員間で行っている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を職員が集まり話し合い、取り組むことで、質の向上に繋がっている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	年に1回程度の開催で、グループホームの行事や出来事、入居者の様子やグループホームに関する問題など報告し、意見をもらうなど意見交換を行っている。今後は運営推進会議の意義をより理解され、開催回数を増やすなど委員からの意見を取り入れる機会を増やされることを期待する。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に直接意見を伺ったり、電話にて連絡をとった際に何うなどして対応している。また、2ヶ月ごとのホームだよりを活用し、家族との情報交換を行っているようであるが、職員異動の情報などより細やかな情報提供を通じ、家族からの不安が生じない対応を期待する。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の新年会や自治会、行事に参加しているが、職員の時間的な都合や入居者が参加できるレベルではないとのことで、参加は十分に出来ていない。運営推進会議などを活用し、地域活動の情報を収集されるなどして、入居者のレベルにあった地域活動への積極的な参加が期待される。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	互いに助け合う家族のようないたわりを持って支援するという理念で、「友情」を一つのテーマとして職員への意識伝達を行われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、互いに連携し、日々の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の新年会や自治会、行事に参加しているが、職員の時間的な都合や入居者が参加できるレベルではないとのことで、参加は十分に出来ていない。	○	運営推進会議などを活用し、地域活動の情報を収集されるなどして、入居者のレベルにあった地域活動への積極的な参加が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施するにあたり、職員同士で話し合いながら日頃の支援を振り返っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生活でのリハビリ活動などの取り組みを報告することでホームの理解を得ており、また、意見をもらうことでサービスの向上を図っている。しかし、年1回の開催にとどまっている。	○	運営推進会議はホームを理解してもらうひとつの場と捉え、おおむね2ヶ月に1回の開催とされるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市長や市町村担当者との面談の機会を用いて助言を得るなど、市町村と連携し、サービスの質の向上に繋がっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の健康状態や金銭管理の状況などは、ホームだよりや家族の訪問時に伝えるなど適宜行っている。しかし、管理者の異動については報告されているが、職員の異動等の情報に関してはなされていない。	○	職員の異動等の情報についても、家族に対して報告されることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族の訪問の際に個々の意見を聞き、管理者や職員で話し合うなどしてホームの運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動があった場合でも、入居者に不穏がないようにあいさつを心がけている。また、入居者の状態を共有し合うなど、影響を最小限にする努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入居者の支援のための勉強会を行ったり、外部研修へ参加しその伝達講習を行うなどサービスの質の確保を行っている。また、介護の資格を持たない職員には介護の方法を教えたり、資格取得を勧めるなど職員の育成をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアプラン作成者は地域のケアマネージャー研修会に参加したり、特別養護老人ホームの研修会に参加するなどサービスの質を向上させている。また、地域の他のグループホームに訪問するなどして施設の機能向上に繋がっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り1週間程度の試験的入居期間を設け、入居者自身や他の入居者の様子をみながら、本人が納得できるよう支援されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの生活機能を評価し、それにより入居者の言動を把握し、職員や入居者同士が共に学び、支えあう場面づくりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日常生活の様子の中から、入居者の思いや意向把握をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時のアセスメントなどで入居者や家族の意向を取り入れ、職員同士よく話し合い介護計画を作成している。しかし、家族の意向を継続的に確認できていない。	○	利用者の状態に応じて、家族の意向を踏まえた介護計画を作成されるよう期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に評価を行い、3ヶ月毎に介護計画を見直しを行っている。また、心身の状態に即した見直しも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に応じ、病院受診の付き添いなど柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームの協力医以外でも受診は可能であり、対応している。常に受診できるよう協力医との連携もとられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にターミナルについての方針を入居者などと話し合い、終末期の対応について、かかりつけ医と話し合っている。	○	重度化や終末期について話し合いはできているので、文章化し全員で共有されることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライバシーには配慮し、職員から個人情報の取り扱いに関する誓約書をとるなどの個人情報の管理を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や一日の過ごし方など、その人のペースをつかみ支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目が不自由な入居者には食べやすい大きさに切り、メニューなどの説明を行っている。また、入居者と共に食事をとり、準備や片付けなども一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日を設けているが、別ユニットとあわせると週6日は入浴が可能となり、入居者の希望にあわせた支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの持てる力を引き出す取り組みを行い、一人ひとりにあった役割づくりや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望や体調に添った散歩、外出などの支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は玄関ドアの開閉時にはサイン音が鳴るようにし、鍵をかけないケアを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得るなどして、年に1回の避難訓練を行っている。	○	近所の方々の協力も得られるような働きかけを行ったり、夜間の避難を想定した訓練が行われるよう期待される。また、年1回の訓練を年2回に増やされることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの水分量や食事量をチェックし把握している。それにより足りない栄養分については補助食品を用いて栄養バランスを保つ努力を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や居間にはソファや椅子などが置かれ、入居者一人ひとりが過ごせる空間がある。また、季節に合わせた飾り物や絵を貼るなど工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を持ち込めるなど配慮されている。また希望により、家族が泊まれるようにベッドを置くなど家族も含めて居心地よく過ごせるよう工夫している。		